

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

Series 3 Number 2

August 1994

新しい方式での初回の大会 第118回獣医学会 (北里大学) 9月5〜9月7日

獣医学会の改組が専門部会の設置や理事の選挙制度についての改変に注目されている一方、学会の方式も大いに変えられることになった。その第一回の試みが今回の北里大学で行われる第118回の大会からはじまる。講演申込の時に気付けられたように、トピック別に分けられ、従来の分科会別の発表の場がなくなった。六会場にわかれて合計48のトピックが8演題ずつであるので演題の発表があり残りの演題がポスター・展示である。解剖関係のポスターは10、11の23となつている。この他にプレナリーセッションとして奨励候補演題が10題えらばれている。どういう基準でえらばれているのかは不明であるが、解剖分科会からの候補はゼロである。応募した会員がゼロだったかもしれない。解剖分科会は先制御承知のように3回にわたつて分科会としての奨励賞を出して来たが、この制度の発足を見出したで前号でお断りしたように、6名の受賞者で打ち切りにした。これからはぜひこのプレナリーセッションにむけてエントリーするように各研究室で若い研究者を助まっていたきたい。

なるのでどうかなるべく多くの参加をお願いする次第である。

国立8大学獣医学懇談会
とは何をしている集会か？

学会の度に、その前日に国立獣医学協議会、私立獣医学協議会協議会が午前中にひらかれ、午後は全国獣医学関係大学代表者協議会がひらかれている。各大学から2、3名の代表者が送られてくる。この後に、すなわちアブターファイブに連大関係の8大学の関係者が懇談会を連絡会を行っている。一体何を論じているのかと、あやしむ向きがあるとも聞くので、議論の内容の一端を紹介しておきたい。(9月4日に北里大学本館一階の会議室で開催予定のもの)

☆教養部改組に関連して獣医学科の取り組み方について(獣医学科の講義増の要求と関連で受けられないのか等)

☆獣医学科関連連理部長会議を申し入れることについて

☆家畜病院の整備拡充についての方針

☆獣医学科の科研費の配分方式が公平感をかいているという評判にどう対応すべきかについて

例えは日本解剖学会はじめ、他の学会では科研費の審査員を選挙で選んでいる。一方獣医学会では理事会で内々に選定されており、畜産学会の会員などからも獣医学会は選れていないと批判されている。

☆獣医学卒業生がバイテク関係にもっと行くのか、小動物臨床にもっと傾斜するのかの情勢判断について

☆大学の答申で、
「なお、医師、歯科医師、教員、船舶職員、獣医師はおおむね必要とされる整備がすでに達成されているので、現行計画に引き続き、拡充は予定しない事にする。」と明記されてしまった経緯と今後この部分を撤廃させるための方策について

☆産業動物医の募集が急減していることについて

☆獣医学科の拡充を封じられ、6年制を充実するための方策として、は、再編整備が早大が早大しかないのではという事について

☆その他諸々の情報交換
(例理工学部ができる場合の農学部への影響)

(例衛星放送の設備を拡大大まには岐阜大に設置するという計画の連合大学院への影響)

選挙予告

分科会の地位が不確実になったのに牽引していましたが、会長、副会長、幹事の改選を早急に行い、明春の二回学会(東大駒場)までに発表したいと思っております。杉村先生(副会長)が御退官になったことや、WAV Aのアジア地区の副会長(西田隆雄先生)の改選(明年の9月の世界獣医学大会で発表)も要請が来ています。それから分科会の名称をどうするかという問題もまだ決着しておりません。これらの一切を一回のアンケート、投票で片付けたいのですが、その様式、学生会員の取り扱いは、今回の懇親会でお話しします。出席されない会員にも周知されますようにお願いします。

解剖分科会の懇親会

(場所) 北里大学学生ホール
(会場) 正会員4000円 (九月五日午後17:30) 学生員3000円 (九月五日午後20:00)

今回の学会では解剖分科会としてのまとまったシンポジウムも出来ませんし、演題発表のテーマ別に分散しているのが、分科会としての集いの機会がなくなり、困つて居りましたところ、北里大学の和栗先生のお話りで恒例の分科会パーティーを開催していただくことになりました。恒例と云つても全員が泊まりがけというスタイルをとらずに、北海道大学の場合同様に会費として解散をいたします。学生会員を含め、また基礎獣医学専門部に登録しておられる方も奮って御参加下さい。(現在申込者60余名)

世界獣医学大会 (WVA) と 解剖分科会 (JAVVA)

前々号で御紹介したように明
年九月に横浜で開催される世界
獣医学大会 (WVA) には WVA
も構成学会になっているので
JAVVA がホスト学会の一つ
として協力することになってい
る。

解剖分科会としては当
面次のような四つの仕事
がある。

① WVA の総会を開
催すること。

② 一般演題 (ボス
ター) のアブストラクト
のとりまとめと和訳と開
催中の展示。

③ 解剖参加者による懇
親会の開催。

④ シンポジウム「野生
動物の解剖」の開催。

そのうち①総会と②懇
親会は会長の Sack 先
生からの依頼によるが、
これまでモントリオール
やリオデジャネイロでの
会議に出席した経験が無い者には
どの程度のことを用意するのかわ
りにくい。更に Sack 会長自
身は来日されない。従って現在ア
ジア地域の副会長でもあり、これ
までの会議に出席されたことのある
西田隆雄先生におまかせすること
にした。先生は JAVVA の中の
WVA 入会者 (四十名位) から
臨時会費を徴収するなどして、①

と③を行う費用にする案などを
持っておられる。林良博先生、
山内昭二先生、などに御相談の
上近々具体案をたてていただけ
る見通しである。

②のうちアブストラクトのと
りまとめは、WVA の方針では
サンケイコンベンションが一手
にということになっているが、
Sack 会長は解剖は JAVVA
でまとめてはどうかとの意向を
示されている。和訳の方は、獣
医師会の強い要望で、口演の同
時通訳と平行してプロシードイ
ングの和文版を出すことがプロ
グラム委員会で決定されたこと
による。

④のシンポジウムは分科会の
評議員各位からのアンケートか
らタイトルをしばらくこんでい
った、「獣医学教育」も付いてい
たのだが最終的には「ANATOMY
OF WILD LIFE」のみになった。

当初から Sack 会長、西田
副会長はじめ WVA としては
自前でシンポジウムを企画する
ことに消極的であったので、
JAVVA が独力でやることになっ
たが、Sack 会長の来日の予
定がないこと、シンポジストに
対する大会当局からの経済援助
が原則として一切当てにできな
いことなど他に、時間的にも
2 時間で演者は 6 名以内という

制約が課せられていたことか
ら、このような結果になった。
現在来日予定の演者は大の解
剖学の著者でもある前コネル
大学教授の EVANS 先生、同
じく前号ニューズレターで紹
介した犬の解剖学の著者でハイ
オ大学を退官されたばかりのア
ンダーソン夫妻、それにリヨン
大学の BARON 教授の三名
である。詳しくは今月発送され
る WVA のセカンドサーキュ
ラーを御覧いただきたい。いず
れも (ブランクペーパー、ライ
オン、イノシシなど) 肉眼解剖を
中心にまとめていただく。

サテライトシンポ

多少紛らわしいことで混乱を
招いていることでもあるのでこ
の場をかりて全く同名のシンポ
ジウムを別に 2 回用意している
ことをお知らせしたい。

その一つは明年 4 月 1 日に日
本解剖学会百周年事業の一つと
して東京大学で二時間程度のシ
ンポジウムを企画している。こ
れは国内の演者のみら名。
その二は、WVA のシンポジ
ウムのサテライトシンポジウム
として企画中のもので、前記三
演者の他に国内からも 15、20 名
の演者と、多数のポスター発表
も加えて 50 演題程度の規模のも
のを東大農学部を会場にした横
浜の会期中に開催する。このサ
テライトシンポの演題はフル
ペーパーとして (写真や表も含
める)、単行本形式で出版の予
定。上野動物園所蔵の野生動物

関係の書籍・文献三万点のリス
トも併載することで話し合いが
進められている。解剖分科会
員が中心になることは勿論であ
るが、動物学、水産学、畜産学
など関連分野の方々の発表も大
いに歓迎なので周知宣伝してい
ただきたい。例えばサンディエ
ゴからイカの研究者の参加も
予定されている。

演題 (口演 15 分又はポスター) 募集
いずれも印刷ペーパー 4 頁程度
のフルペーパーとして原稿を提
出のこと。
☆参加希望問い合わせ先
TEL & FAX
0839 (04) 27113 (牧田)

国立 B 大学獣医学懇談会 とは何をして集まろうか?

家畜組織学用語、家畜発生学
用語と相ついで刊行し、アメリ
カの獣医解剖学会 (ニユースレ
ター) や、国際家畜解剖学会 (W
AVA) のニユースにも紹介さ
れましたが国際版は合冊で出版
すると公示されているので、日
本版も合冊をつくるための検討
をはじめていきます。その為に日
本中央競馬会から研究費をうけ
ました。一方、そのつなぎに、
日本中央競馬会が家畜解剖用語
集一千部が増刷されました。各
大学で御入用の際は一括して東
大の林教授にお申込下さい。従
来通り一冊 3000 円を 2500
0 円で配布します。
なお、組織学用語、発生学用

語の会員への無料配布を終わ
りましたが、僅かながら残部が
ありますので、これは送料実費で
お分けします。同じく東大の林
教授宛にお申込下さい。

定評！解剖学シリーズ 獣大の解剖学 B5判/980頁 定価 2,500 円 発行 7/94	猫の解剖学 A4判/330頁 定価 2,500 円 発行 7/94	猫の解剖学 A4判/330頁 定価 1,300 円 発行 7/94	組織と器官・ 走査顕微鏡 A4判/517頁 定価 1,500 円 発行 7/94	兎の解剖学 B5判/240頁 定価 1,000 円 発行 7/94	ラットの 解剖学 B5判/240頁 定価 1,000 円 発行 7/94	家畜発生学 B5判/385頁 定価 1,300 円 発行 7/94	マウスの 解剖学 A5判/190頁 定価 1,300 円 発行 7/94	獣医組織学 A5判/360頁 定価 1,500 円 発行 7/94	メルク獣医学 便覧 第七版 B5判/330頁 定価 1,500 円 発行 7/94	犬の解剖学 B5判/330頁 定価 1,500 円 発行 7/94	株式会社 〒113 東京都文京区湯島 2-16-28 TEL: 03-3816-8701 FAX: 03-3816-7001
------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	--------------------------------------------	------------------------------------------------------	--------------------------------------------	--------------------------------------------------	--------------------------------------------	--------------------------------------------------	--------------------------------------------	-------------------------------------------------------	--------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------

国際脊椎動物

形態学会(シカゴ)

今夏、International Congress Of Vertebrate Morphology (ICVM) が、シカゴ大学で開催されました。演題数計300で、5日間にわたって充実した発表の連続でした。

ICVMはまだ4回目の若い集会ですが、細胞生物学が発展する中で、脊椎動物の解剖学のこれからの方向を模索しようという人々の集まりです。対象となるのは、ナメクジウオからヒトまで、幅広い動物群です。例えば「顎と歯の発生」、「骨格筋と口コモーション」、「水棲動物の適応」、「生殖器官と繁殖」、「中枢神経系の進化」、「循環系の機能形態」といったサブグループを構成しながら、議論が進みます。

如何に新しい分野が広がっても、形態学者はもつと真剣にAnatomyに取り組む必要があるという雰囲気、会場全体に満ちあふれていました。同時に、分子・細胞生物学の演題が織り込まれ、古典解剖学者との間で有効な討論が行われました。古生物学者、分類学者、生態学者の参加も盛んで、脊椎動物解剖学を進める際の主だった姿勢を学ぶことが可能です。

解剖学関係 国際会議四題

「比較解剖学の教育の現場」というセブションもあり、分子生物学の中に埋没しないように努力する各国の状況が報告されました。

それにしても寂しいのは、日本からの出席者がわずかに数名であったことです。分科会からは筆者ただ1人の参加にとどまりました。日本には脊椎動物のAnatomyは存在しないという、あながち嘘とはいえない印象を、世界の人々に与える結果となりました。解剖分科会こそ、将来この分野を背負える力を秘めているように思います。

今回は、ぜひ分科会から多数の参加者が集まることを切望します(遠藤秀紀 国立科学博物館)。

アメリカ解剖学会

(4月24、28日)

本年度よりアメリカ解剖学会(AAA)はEXPERIMENTAL BIOLOGYとして7学会の連合した形で開催されることになった。デズニールランドのあるアナハイム市のコンベンションセンターを主会場に巨大な会議が組織され、

ポスター展示、商業展示も全部はとて見られないほど多数であった。ただAAAはこの中に埋没してしまっただけで盛り上がるに欠けていた。マクロ解剖のセブションも聴衆は10名にすぎなかった。シンポジウムとしては肝小葉を機能単位(中心静脈を結ぶ線を辺縁とする)とみなすことを更めてとりあげていた。



横断的に多数のトピック別の会場があつて機能的な編成ではあるが、いったいどこに解剖の本からは15名近い参加者で、正式な登録者数では他国をはるかにしのいでいた。フランスの解剖学会(第76回)と併催であったがそのフランスより参加者が多いのは確かであった。U・S・Aからの参加が極めて少なく10名前後であった。

フランスのパロン教授、オハイオ大学をこの6月に退官したというアンダーソン教授の顔がみられた。日本の家畜解剖からは保田幹雄先生が来ておられた。イタリアのモッタ教授らの活発な動きが見られたが、5年後の今回の国際会議はイタリアと決定した。因みに明年はマルビギー記念国際シンポジウムをモッタ教授の主催で行うとのことであった。

第13回国際電顕会

(7月17、22日)

人々がいるのか、宴会の時でも判らないという不便があつた。アメリカ獣医解剖学会の朝食会もホテルの一室でひっそりと行われていた。明年もこのような形式でアトラクタ市で開かれる。アブストラクトの締め切りは本年十二月一日である。

国際解剖学会

(7月24、30日)

ポルトガルのリスボンで第14回国際解剖学会がひらかれた。日

伝臭の強いポスター発表も散見された。

商業展示も盛大で、日本の電顕メーカー(日立、日本電子、トプコン)のブースも盛況であったが、フィリップス、ツァイスの電顕も健闘しており、日本のメーカーの宣伝を呑み込んでおれないことを教えられた。

今回は4年後にメキシコで開催されることになった。

解剖学分科会シンポジウム延期

解剖分科会シンポジウムの第4回として「獣医解剖学教科書の現状と問題点」を企画して数名の方々には講演を依頼してみましたが、準備不足のために明春の学会まで延期することに致しました。心づもりを含め準備をはじめていただいた先生方には申し訳ありませんでした。

人物往来

おめでとうございました。
☆新潟大学 植原征治助教授7月に教授に御昇任

☆岩手大学 谷口和之助教授7月に教授に御昇任

☆新潟大学医学部解剖学 岩水敏彦助教授9月に北大獣医学解剖学教授に御就任

